

海運の重要性を学校教育の場で
～福山市立常石小学校社会科授業に協力～

当協会は、学校教育において、我が国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、海事・港湾都市を中心に要請活動を展開しております。

その活動の一環として、地元の会員会社2社の協力を得て、3月1日に広島県の福山市立常石小学校5年生の社会科の授業にゲストティーチャーを派遣いたしました。本取り組みは本年度で3年目を迎えます。

同校の教室からは常石造船の工場を見ることができ、父兄の多くが造船に関わっている児童にとって船は身近な存在となっております。児童は本授業に向けて、海運のことや働く人々のやりがいなどを自分たちで考えたり調べたりするとともに、分からなかったことや疑問に思ったことを、ゲストティーチャーを通して海運の現場で働く人の生の声を聞いて解決することで、海運をはじめとした海事産業により興味を持っていただくことを目的として行われました。

当日は、児童が「貿易」「造船で働く人」「船で働く人」などのテーマごとに自ら調べたことを発表するとともに、「船員の働く時間や寝る時間は決まっているのか?」「船一隻を造るのにどれくらいの日数がかかるのか?」など数多くの疑問をゲストティーチャーに投げかけました。ゲストティーチャーからは、発表に対する感想や解説を行ったり、児童からの疑問に答えるなど、活発に交流が行われました。

授業後には、同校の教員から「常石造船でものづくりに携わる人々の思いを改めて知るとともに、今後の海運業について現状を踏まえた解決策を真剣に話し合うことができた」「身近にある常石造船や海運業の仕事が私たちの生活を支えてくれていることなど、自分たちの生活と結び付けながら考えることができた」などの感想があり、海運の重要性について改めてご認識いただく機会となりました。

当協会では、今後も我が国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を広く展開してまいります。



授業の様子

(発表する児童および質問に答えるゲストティーチャー)